

# 第6回ワークショップ 健康グループまとめ

市民として出来ること、行政に要望すること、病院へ要望することの整理。目指すもののイメージ、現状把握の両立。

現状を知るためのデータが必要。データに基づいての討議でなければ、夢物語で終わる。

ワークショップとは、自由闊達な会議。行き詰った時は、「真似る」フィールドワークも良い。実践された先駆的な地域に行き、見聞を広めては。

行政と一体となってまちづくりをする、またとないチャンスだが病院の中はみえづらい。ワークショップへ出席して説明して頂きたい。

内容の2/3が、病院への質問。病院からの説明で解決してワークショップとしての姿勢も間違えないのでは。

市民が積極的に関わってこなかったまちづくりをやっていくのが、このワークショップ

佐久病院の再構築に特化したまちづくりだが、市民主体の活動の場。病院の説明をうけて、いい悪いを問う場所ではない。市民として出来ることをまず考える。

臼田地域は訪問診療の充実で在宅介護の割合が高いが、今後、介護状態に移行するボーダーラインの高齢者も多い。高齢者の現状、買い物弱者の現状や本音を知る必要。

自分達の老後も見据えて、支えてくれる若い人達にも住みよいまちづくり。佐久病院があるのだから、中心に「医療」を据えたまちづくり。

臼田地区の訪問看護師は、他地域よりストレスを抱えている。折角、熱意とキャリアがありきてくれた若い看護師が辞めてしまう現状。自分達も地域に出てアンケートなど情報収集の必要。

これからの討議の大きな柱

- ① 地域医療センターの姿
- ② 臼田地域での在宅介護・在宅医療の望ましい姿

医療が高度化、専門志向になり、患者の立場としてわかりにくい。

「2足のわらじ」とは、都会に行かずに高度医療が受けられることと第一線の在宅看護を同時にやっていくこと。機能分割で、高度医療が佐久にとどまり、地域医療センターで健康管理が出来る。今の佐久病院の姿は大きく変わらないという認識。